

この度はアリゾナ大学短期留学という素晴らしい経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

私は今回、このプログラムに応募した理由はいくつかありました。以前から、自分の英語力を生かして、将来はアメリカに臨床留学をしたいと漠然と思っていたので、どんなものなのかを自分の目で確かめたかったこと、また臨床留学を実現するにあたって、自分に今どの部分が足りなくて、どこを重点的に鍛えるべきかを知るには行ってみるのが一番よいと思ったことがその大きな理由でした。今振り返ってみて、その目的は達成することができ、とても大きな収穫を得て帰ってこられたと思います。

1. Cardiology consult team

4週間弱の間、ここでお世話になりました。Cardiology consult teamは、他科からの循環器に関する consult を受けます。また、その日にアリゾナ大学付属病院でとられた心電図はすべてこちらに送られてきて、チェックを入れることとなります。Cardiology consult teamには attending1人、fellow1人、resident2人、そして僕たち学生2人の計6人という内訳となります。

1日の予定

- 7:00～ Cardiology conference (fellow 向け/朝食付)
- 8:00～ resident と共に round、EKG reading
- 9:00～ Case conference(resident 向け)
- 10:00～ resident と共に round、EKG reading
- 12:00～ Case conference or Ground rounds(resident 向け/昼食付)
- 13:00～ attending と共に round

大体の予定はこんな感じになります。私たち学生は各 resident にそれぞれ1人ずつついて、1日中行動を共にする形となります。

Roundは患者さんの診察です。Resident 2人に患者さんが半分ずつ割り当てられます。Residentは自分の受け持った患者さんのそれまでの経過や検査所見などのデータを集め、患者さんを診察し、それと assessment までを含めて、午後からの attending との round で attending に報告します。ここで attending や fellow から症例に基づいた多くの teaching があり、質問すればたくさん答えが返ってきます。私は presentation の練習もしたかったので、朝 resident より早く行って、患者さんのデータを集めて、resident が来たら resident に報告するようにしていました。途中からは attending への presentation

もやらせてもらいました。

Case conference は主に resident 向けですが、resident と学生が参加します。面白い症例をみつけた人がその日の司会となって、PBL 形式で議論をします。特に resident が中心となり、熱い議論が繰り広げられます。アリゾナ大学の研修プログラム責任者の先生も毎回いらっしやって、resident や学生に鋭い質問や指摘をされて、そこでまた teaching があります。最後に chief resident がその症例についてのミニレクチャーをしてくれます。EKG reading は病院全体から送られてきた、心電図を読むことができます。まずは自分で読んでみて、所見について考えます。それを attending のところへ持って行って今度は一緒に読むことによって自分の答え合わせも兼ねることができます。

2. General medicine team

アメリカの医学生がどんな勉強をしているかを知るという目的で、今回お願いして medicine team で一週間勉強させてもらいました。ここでは、attending が 1 人と、resident が 2 人、3 年生の学生が 2 人でひとつのチームになります。新たに入院することになる患者さんはまず、学生が診察し、assessment まで考えて、resident に報告します。今度は resident が足りなかったところを中心にもう一度患者さんを診察し、attending との round で報告します。学生でもチームの一員として、実践的に勉強ができるところがとてもうらやましく思いました。

空いた時間を中心に resident や attending がパワーポイントなどを用いて、lecture をしてくれます。また case conference にも時間が空いたら出席します。

3. 学んだこと

今回、学んだことは大きくわけて 3 つありました。

1 つ目は、循環器疾患、特に心電図の読み方についての知識が深まったことです。空いた時間に fellow の Dr. John が 4 回に分けてとても分かりやすいレクチャーをしてくださったおかげで、心電図の基本的な読みができるようになりました。また、患者さんについてわからないことを resident にその場その場で質問すると、とても深い答えが返ってくるものが多く、とても効率よく学ぶことができました。

2 つ目は、アメリカと日本との教育システムの違いです。実際にアメリカの医学教育を体験してみて、やはりとても大きな違いがありました。いい医者であるためには、いい教育者でもなければならぬという考えがあり、学生や resident のプログラムを考え、それをいい方向に改良していくことを主な仕事としている先生もいらっしやいました。また、学生も実践的な勉強をすることができます。

3 つ目は、アメリカと日本の医療システムの違いです。日本と比べて、実技的なことを医者はあまりやらないと感じました。例えば、心エコーは心エコー専門の技師さんがやり、コンピューターに載せてくれた画像を医者が読みます。また、そこで得られた所見も電話

で dictation を行うと、それをあとで、事務の人がコンピューターに打ち込んでおいてくれます。

4. まとめ

今回アメリカの医学教育を実際に体感してみて、自分の将来の目標が以前より定まりました。また、臨床留学に向けてどんな勉強が必要なのかもよくわかりました。自分の医師としての力を磨く意味でも、教育システムを学ぶ意味でも将来的にはアメリカで resident をしたいという気持ちが強くなりました。帰ってきてからは、臨床とともに、後輩を上手に教えることもできる医師を目指したいと思っています。今回のアリゾナ大学での研修は行くことができ、本当によかったと思っています。帰ってきてからは、自分の体験を学校の仲間に伝えています。行ってみようか迷っている後輩のみなさんには、行って自分の目で確かめてくることを強くお勧めしたいです。

最後になりますが、今回の短期留学にあたり、ご尽力くださった、横浜市立大学名誉教授の松本昭彦先生、JECCS の高階経和理事長、木野昌也会長をはじめとする JECCS の先生方、強力なサポートをしてくださった、事務局の若林さん、Dr. Ewy をはじめとするアリゾナ大学の先生方、ホストのジェリー、同行した笠松さんに深く感謝します。ありがとうございました。